



Solaris 7 ユーザーズガイド (追補)

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303-4900
U.S.A.

Part No: 806-2176-10
1999 年 12 月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, Power Management, Java, JDK は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Netscape は、米国 Netscape Communications Corporation の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Solaris 7 User Supplement*

Part No: 806-1648-10

Revision A

© 1999 by Sun Microsystems, Inc.



目次

はじめに v

1. 新規機能の概要 1

2. PDA (携帯情報端末) の同期 7

ご使用前に 8

 PDA Sync のインストール 8

 ▼ PDA Sync をインストールするには 8

 同期の実行 8

 ▼ ポートを設定するには 9

 ▼ PDA Sync ソフトウェアへのアクセス 9

デフォルトで表示される同期タブ 10

ステータス領域 11

 同期処理の属性の設定 12

 Directory Chooser の使用方法 13

コンジットの設定 14

 カレンダーコンジットの使用方法 15

 メモ帳コンジットの使用方法 16

 アドレス帳コンジットの使用方法 18

 システムコンジットの使用方法 18

	メールコンジットの使用方法	19
	インストーラコンジットの使用方法	21
	コンジットの追加	23
	動作記録の表示	24
3.	Netscape アプリケーションの起動用ウィンドウ	25
	Netscape アプリケーションの起動用ウィンドウ	25

はじめに

『Solaris™ 7 ユーザーズガイド (追補)』では、Solaris 7 - 11/99 リリースの新しいデスクトップ機能の使用方法を説明します。

関連マニュアル

このマニュアル (追補) では、Solaris の新しいリリースにおいて追加および変更された機能について説明します。ここでの説明は、すでにリリースされている Solaris 7 のマニュアルセットの内容を補足または変更するものです。

Sun のマニュアルの注文方法

Sun Software Shop プログラムを利用して、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルまたは AnswerBook2™ CD をご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www.sun.com/software/shop> を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 続く

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

ただし AnswerBook2 では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト

```
system% command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

■ スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- 「x86」という用語は、一般に Intel 8086 ファミリに属するマイクロプロセッサを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Pentium III、Celeron の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。このマニュアルでは、このプラットフォームのアーキテクチャ全体を指すときに「x86」という用語を使用し、製品名では「Intel 版」という表記で統一しています。

新規機能の概要

この章では、Solaris 7-11/99、8/99、5/99、および 3/99 リリースのオペレーティング環境に追加された新しい機能について説明します。

表 1-1 Solaris 7 の新規機能

機能	サポート開始 リリース番号	説明
インストール (これらの機能については、『Solaris 7 のインストール (追補)』を参照してください)		
AnswerBook2 ab2cd スクリプトの更新	8/99	ab2cd スクリプトの更新により、ユーザーは AnswerBook2 文書を Solaris 7 Documentation CD から直接読み込むことができます。
システム識別時の DNS 構成	5/99	以前の Solaris リリースでは、マシンは NIS または NIS+ クライアントとしてのみ構成できました。Solaris 7-5/99 リリースでは、システム識別ユーティリティを使用して、システムを DNS クライアントとして構成できます。
Solaris Product Registry	3/99	Solaris Product Registry はインストールされたソフトウェアを管理するためのツールです。次のような作業を行うことができます。 <ul style="list-style-type: none">■ インストールおよび登録されているソフトウェアとソフトウェア属性の一覧の表示■ ソフトウェアのアンインストール■ インストーラの選択と起動

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
パッチアナライザ	3/99	パッチアナライザはシステムを解析し、Solaris 7 オペレーティング環境を Solaris 7-11/99 オペレーティング環境にアップグレードするときに削除またはダウングレードされるパッチを調べます。この解析はアップグレード時または Solaris 7 のシステム稼動中に実行できます。
(Intel 版のみ) PAE モードのサポートの追加	3/99	Pentium Pro のリリースで、Intel は拡張プロセッサに PAE (Physical Address Extension) というモードを採用しました。PAE モードを使用すると、複数のデータベースを実行したり、メモリーを大量に消費するアプリケーションを実行することができます。また、マシンで多数のオンラインユーザーをサポートできます。 この機能については、『Solaris 7 - 11/99 ご使用にあたって (Intel 版)』を参照してください。
システムとネットワークの管理 (これらの機能については、『Solaris 7 のシステム管理 (追補)』を参照してください)		
Universal Disk Format (UDF) ファイルシステム	11/99	UDF ファイルシステムは、DVD (digital versatile disc または digital video disc の略) と呼ばれる光学媒体に情報を格納するための、業界標準フォーマットです。
DVD	11/99	このリリースでは、DVD (digital versatile disc または digital video disc の略) をサポートしています。
(Intel 版のみ) cfgadm コマンドによる PCI ホットプラグ機能	11/99	cfgadm コマンドは、x86 システム上でサポートされる PCI コントローラ用の PCI ホットプラグ機能を提供するように更新されました。
デバイス構成の改良 (devfsadm)	11/99	devfsadm コマンドは /dev および /devices ディレクトリ内の特殊デバイスファイルを管理するのに使用され、再構成が行われた場合にデバイスの構成変更を検知するように更新されました。
(SPARC™ 版のみ) Inter-Domain Network (IDN)	11/99	Inter-Domain Network (IDN) は、Dynamic System Domain (DSD) 間的高速ネットワーク接続機能を提供します。これにより DSD は、ケーブリングや特別なハードウェアを使用せずに、TCP/IP などの標準ネットワークインタフェースにより互いに通信できます。 IDN の詳細や、IDN がご使用のサーバーをサポートしているかについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
coreadm	8/99	coreadm コマンドのサポートにより、Solaris システム管理者のコアファイル管理が改善されました。
cfgadm による SCSI ホットプラグ機能の拡張	8/99	cfgadm コマンドに、サポート可能な SCSI ハードウェアに対する SCSI ホットプラグ機能が追加されました。
BIND 8.1 への移行	8/99	この節は、『Solaris ネーミングの設定と構成』と『Solaris ネーミングの管理』における Bind 8.1 への移行の説明に対する更新情報です。
AnswerBook2 サーバー ソフトウェアの更新	8/99	AnswerBook2 バージョン 1.4.1 サーバーソフトウェアの更新により、ナビゲーションと性能が改善されました。
リモートコンソール	5/99	consadm コマンドを含む新しいシステムコンソール機能です。システム管理者およびサービスプロバイダはシステムで発生する問題をシリアルポートに接続されたモデムでシステムにダイヤルインし、コンソールメッセージを補助デバイスに出力することによってリモートから解決できます。
(SPARC 版のみ) 動的再 構成	5/99	動的再構成により、サービスプロバイダはシステムの動作中に、ホットプラグ可能なシステムボードを追加、取り外し、および取り替えることができ、リポートにかかる時間を節約できます。詳細は、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
UFS ファイルシステムで のデフォルトのアクセス 時刻の更新	3/99	新しいマウントオプション dfratime と nodfratime を使用すると、UFS ファイルシステムでのアクセス時刻更新の遅延を有効または無効にできます。
改良されたシステムブ ートとエラーメッセージ形 式	3/99	syslog ロギング機能が生成するメッセージに、数値による識別子、モジュール名、およびタイムスタンプを追加することにより、システムブートとエラーメッセージ形式が改良されました。
(SPARC 版のみ) 一時停 止しているシステムでの cron ジョブの処理の改 良	3/99	Power Management™ ソフトウェアを使用してシステムを一時停止および再開するとき、システムが一時停止している間に cron ジョブがスケジュールされているかどうかを検査します。このようなジョブがある場合、システムが再開されると、最初の cron ジョブのインスタンスが実行されます。この改良は Solaris 7 リリースから利用可能になり、Solaris 7 - 3/99 リリースでマニュアルに掲載されました。

開発者向け機能 (これらの機能については、『Solaris 7 のソフトウェア開発 (追補)』を参照してください)

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
(SPARC 版のみ) SCSI HBA ドライバ用の動的再構成のサポート	11/99	このリリースでは、動的再構成 (DR) サポートが SCSI デバイス用に更新されました。 ご使用のサーバーが DR をサポートするかどうかについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
PCI ホットプラグ機能	11/99	PCI ホットプラグ機能が更新され、x86 サーバー用デバイスドライバの作成に関する情報が含まれるようになりました。
8 ビットビジュアルサポート	8/99	8 ビットビジュアル共有ライブラリにより、24 ビットハードウェアしか持たないデバイスドライバから 8 ビットビジュアルアプリケーションを表示できます。
『Solaris 7 64 ビット開発ガイド』の更新	3/99	『Solaris 7 64 ビット 開発ガイド』の更新内容の一覧です。
クラスタ対応デバイスドライバ用の DDI インタフェースの更新	3/99	この概要は、デバイスドライバ開発者向けに、デバイスクラス概念、および必要なインタフェースの変更と追加を紹介します。
Java™ Development Kit (これらの機能については、『Solaris 7 のソフトウェア開発 (追補)』を参照してください)		
JDK™ 1.1.7_08	11/99	JDK 1.1.7_08 には、次の拡張機能が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーロ通貨サポートの拡張 ■ 高性能 Just In Time (JIT) コンパイラ <p>JDK の最新バージョンに対応する Java Runtime Environment (JRE) が Web からダウンロードできます。</p> <p>http://www.sun.com/solaris/java</p>

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
Java 2 SDK 1.2.1_03	11/99	<p>Java 2 SDK 1.2.1_03 は、Java 2 に基づいた Java テクノロジーの最初の Solaris でのリリースです。これには、次の拡張が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スケーラビリティと性能の著しい向上 ■ メモリー管理システムの拡張 ■ 高性能でスケーラビリティのある Java Virtual Machine (JVM) ■ 高速な Java スレッドの同期化 ■ プログラムにおけるメモリーリークを発見するヒープ検査ツールによる、診断機能の拡張 ■ Just In Time (JIT) コンパイラの最適化
デスクトップユーザー		
Personal Digital Assistant (PDA) Sync	11/99	<p>PDA Sync により、カレンダーマネージャなどの Sun のアプリケーションのデータを、PDA 上の類似したアプリケーションのデータと同期させることができます。また、アプリケーションやデータベースをワークステーションまたはサーバーから PDA にインストールすることができます。</p>
Netscape™ アプリケーションの起動用ウィンドウ	11/99	<p>デスクトップアプリケーションフォルダウィンドウには、次の新しいアイコンが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape ■ Netscape Composer ■ Netscape Mail ■ Netscape News
Xserver 11R6.4	11/99	<p>Xserver 11R6.4 は次の新機能を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ XPrint ■ Xkeyboard ■ Display Power Management Signalling ■ Xinerama ■ Color Utilization Policy ■ WebEnabledX <p>これらの機能用に新しいマニュアルページが提供されます。</p>

PDA (携帯情報端末) の同期

注 - 最新のマニュアルページを参照するには、ヘルプを使用してください。Solaris 7 - 11/99 のマニュアルページには、「*Solaris 7 Reference Manual Collection*」には記載されていない新しい情報が提供されています。

PDA (Personal Digital Assistant) Sync は、Solaris 7 - 11/99 リリースで新たに追加された機能です。CDE デスクトップに関する情報は、『*Solaris 共通デスクトップ環境 ユーザーズ・ガイド*』を参照してください。

PDA Sync アプリケーションを使用して、カレンダーマネージャなどのアプリケーションのデータを PDA の類似したアプリケーションのデータと同期させることができます。また、ワークステーションやサーバーから PDA にアプリケーションやデータベースをインストールすることもできます。

たとえば、PDA Sync を使用して、Web からダウンロードしたアプリケーションを PDA にコピーできます。このマニュアルに掲載されている図はすべて、ソフトウェアが PDA と通信している状態を表しています。

アプリケーションとは、カレンダーマネージャ/Date Book、アドレス・マネージャ/Address Book、メール・プログラム/Mail、テキストノート/Memo Pad などです。PDA Sync は、Palm V、Palm III、PalmPilot Professional Edition などの、大部分の Palm Pilot Computing プラットフォームのハンドヘルドデバイスをサポートしています。

ご使用の前に

PDA Sync アプリケーションは、共通デスクトップ環境 (CDE) のデスクトップ上にアイコンとして表示されます。初めてログインする時は、PDA Sync は自動的に起動されます。PDA Sync を終了した場合、再び同期を行うには、手動で再起動する必要があります。

PDA Sync のインストール後に初めて同期を行おうとすると、オーガナイザ名の指定を求めるダイアログボックスが表示されます。すでにオーガナイザに名前が付けられている場合は、このダイアログボックスは表示されません。

オーガナイザにパスワードが設定されている場合は、PDA Sync を実行するたびにダイアログボックスで入力求められます。パスワードが設定されていない場合は、このダイアログボックスは表示されません。

PDA Sync のインストール

PDA Sync をインストールするには、スーパーユーザーになる必要があります。

以前のバージョンの PDA Sync ソフトウェアがインストールされている場合は、次のように実行して SUNWpdas パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWpdas
```

▼ PDA Sync をインストールするには

1. **CD-ROM** の **PDA Sync** パッケージが収録されているディレクトリに移動し、次のように実行して新しいバージョンの SUNWpdas をインストールします。

```
# pkgadd -d . SUNWpdas
```

同期の実行

PDA Sync のインストールを終えて、初めて新しいオーガナイザ (またはハードリセットしたオーガナイザ) を同期させようとする、オーガナイザ名の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。ハードリセットを行う手順については、オー

ガナイザのマニュアルを参照してください。すでにオーガナイザに名前が付けられている場合は、このダイアログボックスは表示されません。

注 - UNIX のユーザー名は、ワークステーションにログインするために使用する名前です。オーガナイザのユーザー名は、HotSync のオペレーション中に PDA 画面の右上に表示される名前です。両者の名前は同じであっても、違っていてもかまいません。

▼ ポートを設定するには

「同期処理」ウィンドウが表示されたら、最初にポートの設定を行います。

1. 「同期処理 (**Synchronization**)」タブの左下にある、チェックマークの入ったボタンをクリックします。
2. **PDA** を接続しているポート (**A**、**B**、**C** のいずれか) を選択します。
3. **PDA** の「ホットシンク」ボタンを押します。

▼ PDA Sync ソフトウェアへのアクセス

PDA Sync ソフトウェアにアクセスする方法は、2 通りあります。

ひとつの方法は次のとおりです。

1. デスクトップアイコンを使用して、コントロールパネル (通常、画面の下方にあります) から「アプリケーション」プルダウンメニューを開きます。
2. 「アプリケーション」をクリックして、「アプリケーション・マネージャ」を開きます。
3. 「デスクトップアプリケーション」をクリックして、「**PDA Sync**」のアイコンを探します。
4. 「**PDA Sync**」をクリックします。

注 - PDA Sync のアイコンにアクセスしやすくするには、「デスクトップアプリケーション」画面にある「PDA Sync」のアイコンを、「アプリケーション」プルダウンメニューの「アイコンのインストール」領域またはユーザー空間にドラッグ&ドロップします。

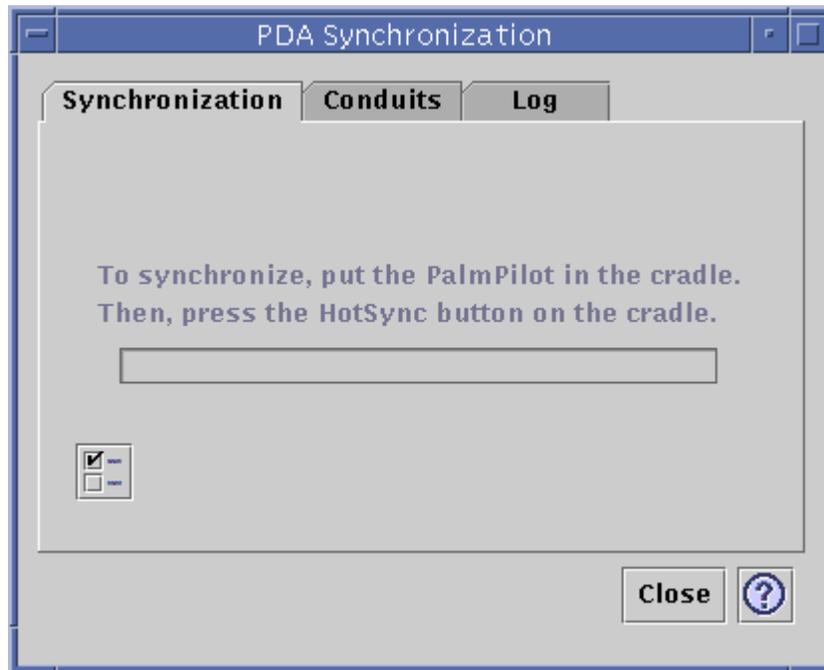
PDA Sync にアクセスするもうひとつの方法は、コマンド行から次のように実行します。

```
/usr/dt/bin/stdpdasync
```

PDA Sync アプリケーションの詳細については、PDA Sync ソフトウェアのヘルプを参照してください。

デフォルトで表示される同期タブ

デフォルトでは、PDA Sync アプリケーションを開くと、最初に「同期処理 (Synchronization)」タブが表示されます。次の図は、ステータス行に示されているように、PDA Sync が同期の準備が整っている状態を示します。この状態で、オーガナイザのクレードルの「ホットシンク」ボタンを押すことができます。



「ホットシンク」ボタンを押すと、現在アクティブなまたはデフォルトのコンジット (「コンジット (Conduits)」タブで定義) に対し現在の設定、またはデフォルトの設定を使用して同期が開始されます。

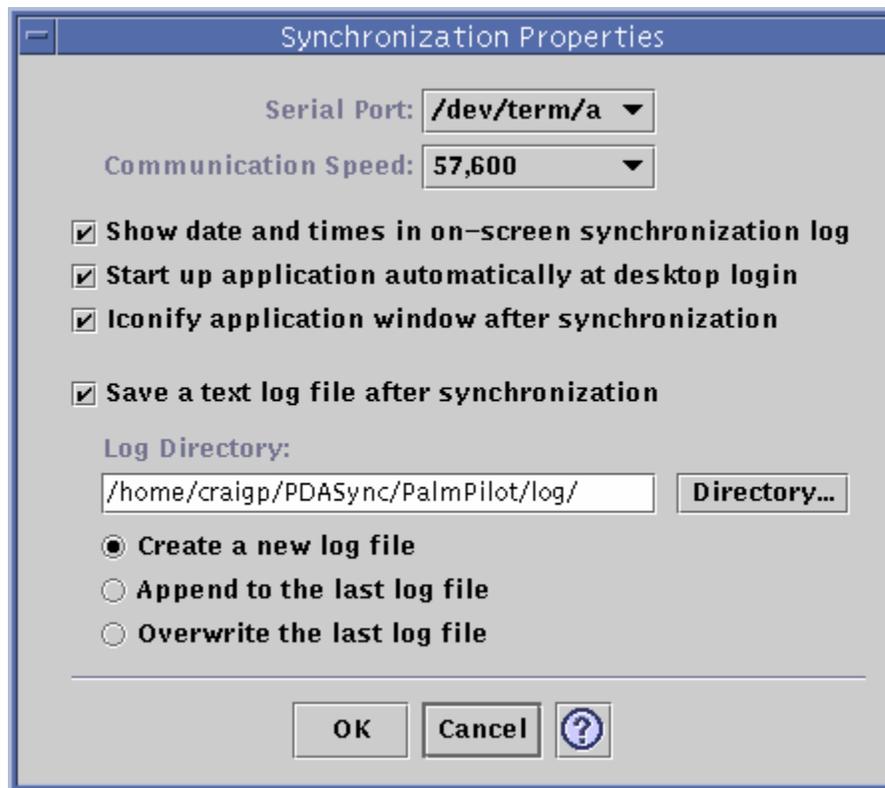
ステータス領域

ボタンの下方にあるステータス領域には、ステータスを示すテキストやプロンプトテキスト、オペレーションが進行中であることを示すグラフィック、同期中の進行予測を表す進行状況バーなどの、現在のオペレーションに関する情報が含まれています。同期またはインストールが進行中でない場合は、進行状況バーは表示されません。「同期処理を取り消す」を選択すると、同期が一時停止して、確認ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスから「取り消し」ボタンを選択すると同期が中止され、「継続」を選択すると同期が再開されます。

同期の完了は、音声によって通知されます。「同期処理の属性」ウィンドウの「同期処理後アプリケーションウィンドウをアイコン化する (Iconify application window after synchronization)」オプションをチェックすると、同期の完了後にウィンドウがアイコン表示になります。

同期処理の属性の設定

「同期処理 (Synchronization)」タブ上のチェックマークの入ったボタンをクリックすると、「同期処理の属性」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、コンジット設定用のダイアログボックスには含まれていない、つまり、特定のコンジットには直接には関係しない PDA Sync のオプションが含まれています。このダイアログボックスのオプションの設定変更が必要になることは、あまりありません。



「同期処理の属性 (Synchronization Properties)」ダイアログボックスでは、次の設定を行います。

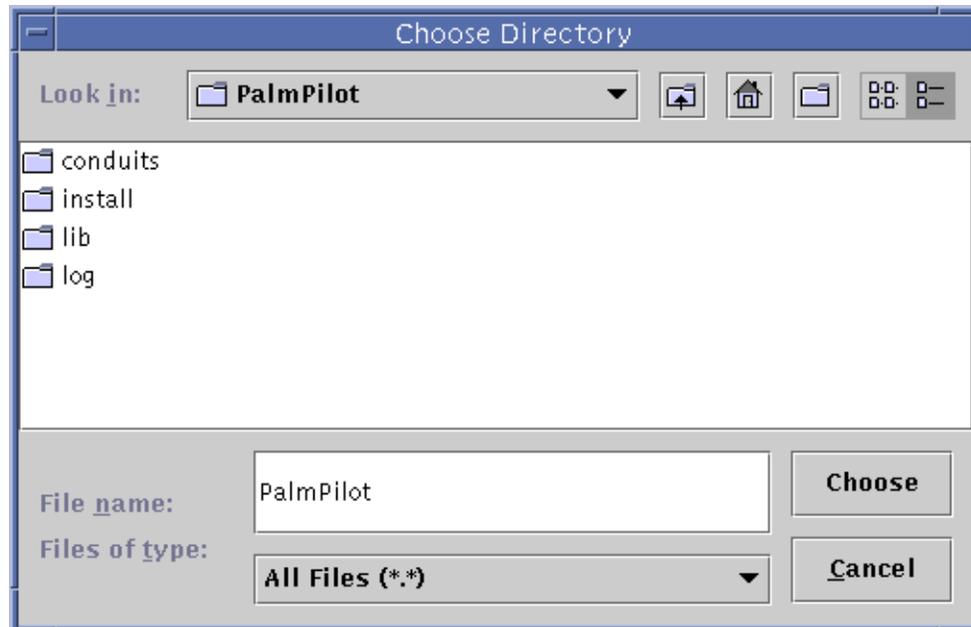
- シリアルポートの設定

- ポートの速度の設定。デフォルトは「できるだけ早く」で、アプリケーションとシリアルポート間で自動的に速度が決められます。プルダウンメニューには、選択肢として、API がサポートするすべての固定速度が表示されます。
- 「同期処理後アプリケーションウィンドウをアイコン化する (Iconify application window after synchronization)」は、デフォルトでは有効になっています。有効の場合は、同期が完了すると、ウィンドウはアイコン表示になります。無効にすると、同期の完了後もウィンドウは開いたままになります。

ログファイルのデフォルトのディレクトリは、\$HOME/PDASync/PalmPilot/log です。

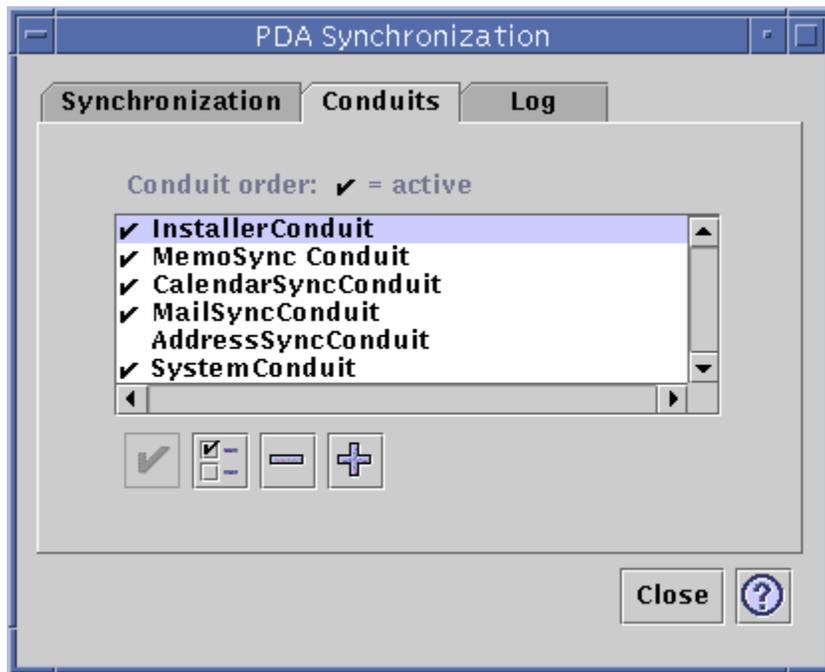
Directory Chooser の使用方法

Directory Chooser が含まれている場合は、必ず標準の JLF Directory Chooser が使用されます。このダイアログでは、フィルタでファイルを選別したり、PDAオペレーション用にデフォルトとして設定するためにディレクトリを選択したりすることができます。



コンジットの設定

「コンジット (Conduits)」タブには、PDA Sync アプリケーションで利用できる全コンジットのリストが含まれています。コンジットは追加したり、削除したりすることができるため、このリストの内容は変化します。アクティブなコンジットには、チェックマークが付きます。次の図に示すように、同期では、アクティブなコンジットのみがすべて実行されます。



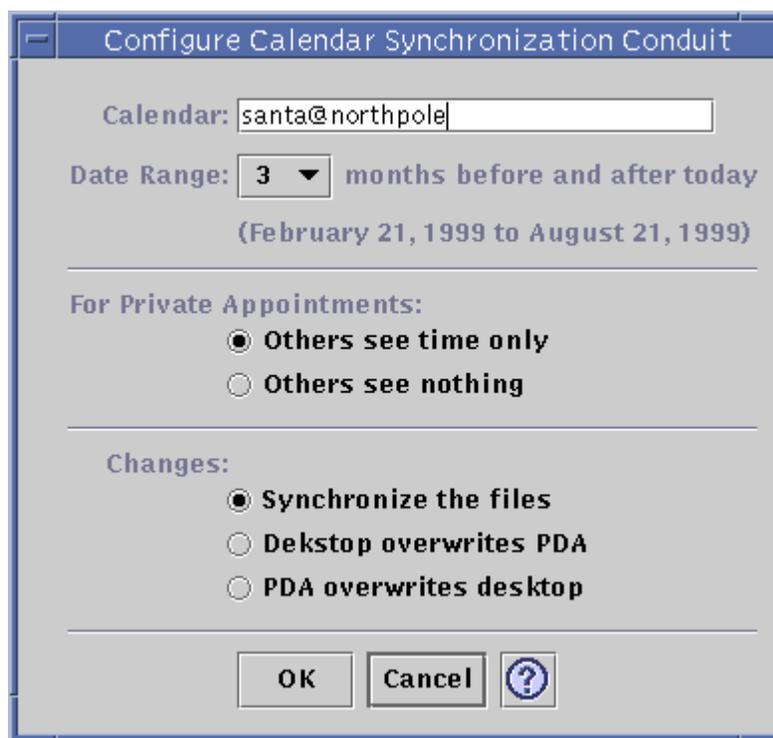
スクロールリストの下方にあるボタンは、リスト内の選択されているコンジットに対して行うことができるアクションを表します(「新しいコンジットをリストに追加」ボタン(「+」)は除く)。ポインタをボタンの上に置くと、そのボタンの近くに小さなボタンタグが現れ、ボタンの簡単な説明が表示されます。このツールバーには、次のボタンがあります。

- 「コンジットのアクティブ / 非アクティブを切り替え」 - コンジットを有効または無効にします。コンジットをアクティブにすると、次の同期で実行されます。
- 「コンジットの設定を変更」 - 選択されたコンジットの設定ダイアログボックスを表示します。複数のコンジットが選択されている場合は、このボタンは無効です。

- 「コンジットをリストから削除」 - 確認ダイアログボックスが表示され、リストからコンジットを削除することができます。
- 「新しいコンジットをリストに追加」 - ファイル選択ダイアログボックスが表示され、新しいコンジットを追加することができます。

カレンダーコンジットの使用方法

カレンダーの「カレンダーコンジットを構成」ウィンドウでは、カレンダーアプリケーション間の予定の同期方法を指定することができます。次の図を参照してください。



このウィンドウでは、次の設定を行うことができます。

- ホスト名の変更。デフォルトは user@host です。
- ワークステーションまたはサーバー上のベースカレンダーの指定

- 同期させる期間の指定。デフォルトの範囲は6ヶ月です。
- 個人の予定について他人に見られてもよい情報の指定

「PalmPilot」のカレ

ンダレコードにメモが添付されていると、カレンダーマネージャの「内容」フィールドに、`<***/home/username/PDASync/PalmPilot/calendar/notes/12345.txt***>`の形式でポインタが表示されます。

- データの同期方法の変更

ファイルの同期 (デフォルト)

- デスクトップと PDA のカレンダー情報のマージ

デスクトップによる PDA の上書き

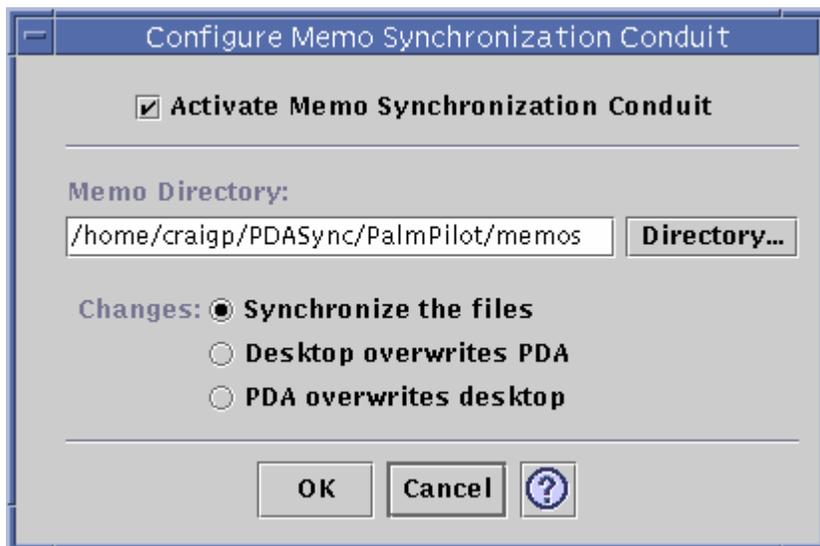
- ワークステーション側のカレンダー情報による、PDA 側のカレンダー情報の置き換え

PDA によるデスクトップの上書き

- PDA 側のカレンダー情報による、デスクトップ側のカレンダー情報の置き換え

メモ帳コンジットの使用法

「メモ帳コンジットを構成 (Configure Memo Synchronization Conduit)」ウィンドウでは、デスクトップと PDA 間でテキストファイルの同期を行うことができます (次の図を参照)。

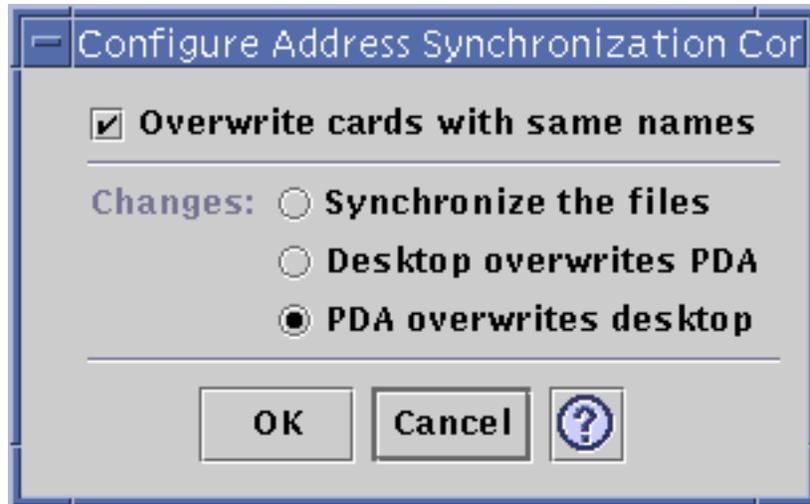


- データの同期方法を変更することができます。
ファイルの同期 (デフォルト)
- デスクトップと PDA のメモ情報のマージ
デスクトップによる PDA の上書き
- ワークステーション側のメモ情報による、PDA 側のメモ情報の置き換え
PDA によるデスクトップの上書き
- PDA 側のメモ情報による、デスクトップ側のメモ情報の置き換え

memos ディレクトリには、たとえば仕事用と個人用というようにメモの種類別にディレクトリを作成できます。同期させた場合、作成したディレクトリは PDA 側ではカテゴリになります。逆に、PDA 側で新しいカテゴリを作成すると、同期させた場合に、ワークステーション上ではファイルシステムのメモフォルダ内のディレクトリになります。

アドレス帳コンジットの使用方法

「アドレス帳コンジットを構成」ダイアログでは、アドレスアプリケーション間の項目の同期方法を指定できます。



このウィンドウでは、次の設定を行うことができます。

- 現在 PDA 上にあるファイルを上書きするかどうかの指定 (デフォルトでは無効)

注 - この機能を有効にすると、確認ダイアログボックスなしでファイルが上書きされます。

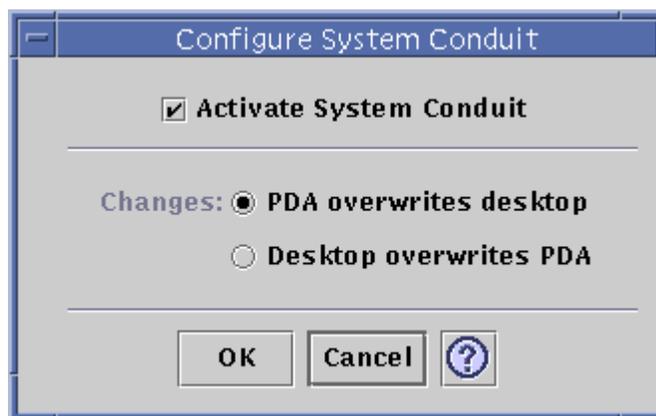
- アドレス・マネージャと PDA の Address Book での異なるフィールド間のマッピング。
- データ同期方法の選択。デフォルトでは、データをマージするよう設定されています。

システムコンジットの使用方法

「システムコンジットを構成 (Configure System Conduit)」ウィンドウでは、あらゆるシステム情報、グラフィティのショートカット、および他のアプリケーションに

関連付けられていないすべての .pdbcs と .prcs のバックアップを設定します。デフォルトでは、PDA によってデスクトップが上書きされます。次の図を参照してください。

注 - 「デスクトップが PDA に上書き (Desktop overwrites PDA)」は、PDA 側のすべての情報が壊れたか、失われた場合にだけ選択してください。



メールコンジットの使用方法

「メールコンジットを構成 (Configure Mail Synchronization Conduit)」ウィンドウは、PDA に INBOX の位置を知らせます。次の図を参照してください。



このウィンドウでは、次の設定を行うことができます。

- INBOX の IMAP 位置 (*server.domain*)、または INBOX のローカルの位置 (パスとファイル名) の設定

IMAP 位置を設定する場合は、ログイン ID とパスワードも入力する必要があります。再入力しなくても済むように、入力したログイン ID とパスワードは保存できます。ログイン ID とパスワードを保存しない場合は、このダイアログが表示されるたびに同期が中断されます。デスクトップ側のメールボックスによって PDA 側のメールボックスが上書きされるように設定することもできます (デフォルトでは、この設定は無効になっています)。

注 - このオプションは、PDA の INBOX フォルダがデスクトップ側と同期していない場合にだけ使用してください。

メールの同期に関する他のすべての設定は、PDA 側で行います。同期させると、PDA は自動的に次のことを行います。

- Outbox からのメールの送信
- 「Deleted」フォルダの削除されたメールの削除
- オプションで定義されている処理の実行

PDA 側のメール同期オプションでは、PDA に次の指示を出すことができます。

- メールボックス状態の両方向同期 (たとえば、添付ファイルなし、メッセージの切り詰めなどの制限に従った、2つの Inbox の同一化)。これは、「PDA parm」オプションを「All」に設定するのと同じです。
- Outbox からのみメールを送信し、取り出しなし。これは、「PDA parm」オプションを「Send Only」に設定するのと同じです。
- フィルタに従ったメールの同期。これは、「PDA parm」オプションを「Filter」に設定するのと同じです。メッセージは、指定した長さに切り詰められます。この長さは、250、500、1000、2000、4000、6000、8000 のいずれかです。フィルタは次の 2 通りの使い方をすることができます。
 - 特定の条件を持つメッセージを無視して、他のすべてのメッセージを取り出す。
 - 特定の条件を持つメッセージを取り出して、他のすべてのメッセージを無視する。

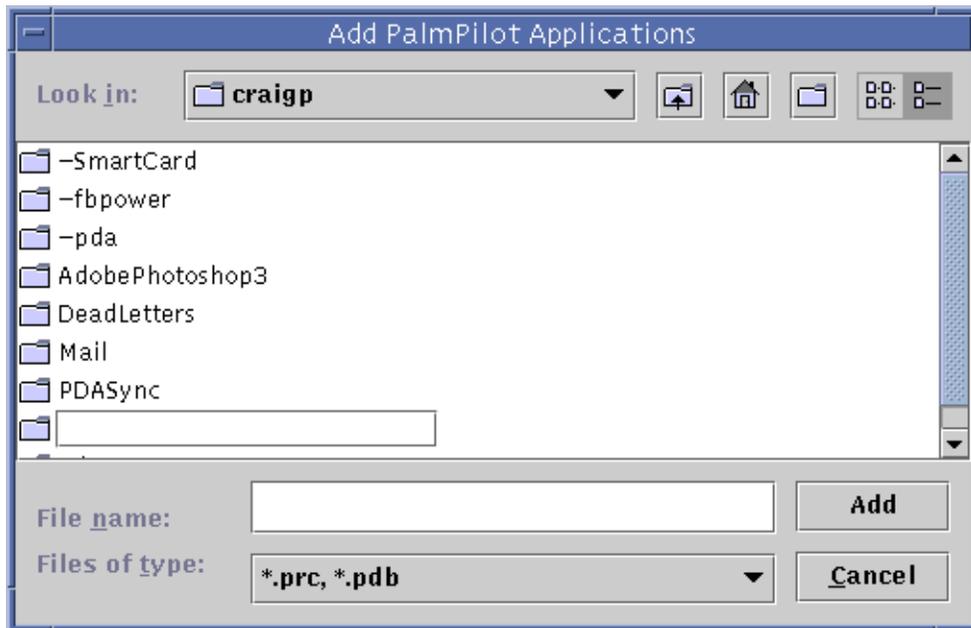
インストーラコンジットの使用法

「Installer コンジットを構成 (Configure Installer Conduit)」ウィンドウでは、PDA にインストールするファイル (アプリケーションまたはデータベース) を指定することができます。



このウィンドウでは、次の設定を行うことができます。

- 現在 PDA 側にあるファイルを上書きするオプションの指定 (デフォルトでは無効になっています)。このオプションを有効にすると、確認ダイアログボックスなしでファイルが上書きされます。
- PDA にインストールできる全ファイルの表示。現在デフォルトのインストールディレクトリに含まれているすべてのファイルが表示されます。「PalmPilot アプリケーションを追加 (Add PalmPilot Applications)」ウィンドウを使用して、ファイルを追加してください (次の図を参照)。リストからファイルを削除するには、「-」ボタンをクリックします。次の同期で、リストのすべてのファイルがインストールされます。



デフォルトのインストールディレクトリは、`$HOME/PDASync/PalmPilot/install` です。

コンジットの追加

「コンジットを追加」ウィンドウから、PDA Sync に新しいコンジットを追加できます。追加するコンジットは、プルダウンメニューに表示される次の3つのカテゴリから選択します。

- 「個人用」(デフォルト) — Web などから独自に入手したコンジット
- 「デフォルト」 — PDA Sync アプリケーションに付属しているデフォルトのコンジットセット (Calendar、Memo、Address など)。削除されたデフォルトのコンジットを置き換える場合は、このカテゴリのコンジットを使用してください。
- 「拡張」 — パッケージによって自動的に追加される、Sun 社製以外のコンジット。

デフォルトのディレクトリの `$HOME/PDASync/PalmPilot/conduits` に、個人用コンジットが含まれます。「インポート」ボタンは、選択されているファイルを「コンジット (Conduits)」タブのコンジットリストに追加します。「ファイルタイプ」プルダウンメニューのオプションは次のとおりです。

- 「All files」 — 全ファイル
- 「JAR files」 — このファイルの種類は、コンジットに最も多く使用されるオプションです。
- 「ZIP files」 — このファイルの種類は、コンジットにはそれほど使用されないオプションです。
- 「CLASS files」 — コンジットのマニュアルにこの種類のファイルを読み込むように明示してある場合にのみ、選択します。

動作記録の表示

PDA Sync アプリケーションの 3 番目のタブ、「ログ」は、同期ごとの動作記録を表示します。この領域は、縦と横方向にスクロールする読み取り専用のテキストフィールドで構成され、同期またはインストールのログがリアルタイムに表示されます。

デフォルトでは、ログの冒頭部分は、データウィンドウに上書きされます。ログファイルにはデータを追加していくことができるため(チェックマークの入ったボタンで開く「ログの属性」ダイアログを参照)、最近のログの冒頭部分がファイルの末尾の部分であることがあります。このことは、ログを表示したとき、スクロールバーがウィンドウの最下部に位置することがあり、その場合は、上方向にスクロールすると、以前のログが表示されることを意味します。

デフォルトでは、同期が行われた日付はログの最上部と最下部に表示されます。タイムスタンプ情報は、必要に応じて追加されます。また、「ログの属性」ダイアログのオプションを使用して、ログに完全なデバッグ情報を表示するように設定することもできます。

ログはテキストファイル形式でディスクに保存されます。ログファイルは印刷することもできます。

表示するよう指定していなくてもログが表示される唯一のケースは、同期中に問題が発生した場合です。障害が発生した場合は、ブープ音が鳴り、ログに問題が発生した場所が表示されるとともに、同期が中止されます。この場合に表示される情報量は、適切と判断される範囲です。問題解決のために、「ログの属性」ダイアログからデバッグ情報を有効にすることもできます。問題が発生した場合は、「同期処理の属性」ダイアログの「同期処理後アプリケーションウィンドウをアイコン化する (Iconify application window after synchronization)」の設定に関係なく、PDA Sync が自動的にアイコン表示になることはありません。

Netscape アプリケーションの起動用ウィンドウ

Netscape アプリケーションの起動用ウィンドウは、Solaris 7-11/99 リリースで新たに追加された機能です。CDE デスクトップに関する情報は、『Solaris 共通デスクトップ環境 ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Netscape アプリケーションの起動用ウィンドウ

「デスクトップアプリケーション」フォルダウィンドウには、新しい 4 つのアイコンが追加されています。この機能は、「アプリケーション・マネージャ」ウィンドウに移動し、「デスクトップアプリケーション」をダブルクリックすることによってアクセスできます。次の新しいアイコンが追加されています。

- 「Netscape」 - このアイコンをダブルクリックすると、Netscape ブラウザが表示されます。
- 「Netscape Composer」 - このアイコンをダブルクリックすると、Netscape Composer が開きます。このウィンドウを使用して、HTML ファイルを編集できます。「ファイルマネージャ」ウィンドウから「Netscape Composer」アイコンへ HTML ファイルをドラッグ&ドロップすることによって、「Netscape Composer」ウィンドウで HTML ファイルを開くこともできます。
- 「Netscape Mail」 - このアイコンをダブルクリックすると、Netscape Messenger の Mailbox (INBOX) が表示されます。このウィンドウを使用して、電子メールを送受信することができます。

- 「Netscape News」 - このアイコンをダブルクリックすると、Netscape News が開きます。このウィンドウを使用して、ニュースグループを新たに購読したり、現在購読しているニュースグループを表示したりすることができます。